

進捗状況の概要 【1ページ以内】

東京農工大学、茨城大学、首都大学東京の三大学は、平成25年度より、ASEAN各国（インドネシア、マレーシア、タイなど）の大学（AIMS大学）との間で、学部生の交換留学プログラム“AIMSプログラム”に取り組んでいる。成長著しいASEANの現状を目の当たりにし、ASEANの諸課題の解決に協働で取り組み、ASEANと日本との架け橋となる実践型グローバル人材を育成するため、今後29年度までの間、計画的・戦略的にAIMS大学との間で相互交流（派遣・受入）プログラムを実施していくこととしている。

取組の初年度に当たる平成25年度は、国内連携大学における協議の開始、AIMS大学とのネットワークの構築、受入・派遣に係るノウハウの共有など、実施体制の整備に努めた。さらに、プレ・プログラムとして、平成26年3月に2週間程度の短期派遣・受入プログラムを実施した。これにより、派遣・受入の双方に関する課題が明確となり、平成26年度から本格的に実施するセメスター派遣・受入プログラムの対応方針に反映することができた。

相互交流の本格的な実施の初年度に当たる平成26年度は、学部生29名をAIMS大学に派遣し、単位取得を目的とした科目履修のほか、現地の文化体験や相手大学学生との交流等を実施した。一方、受入に関しては、インドネシア、マレーシア、タイの3か国のAIMS大学から35名の学生を受け入れ、三大学による共通プログラム、各大学における専門教育、バディ学生（＝受入学生とともに学びながら日本での生活をサポートする日本人学生）との交流等を実施した。

派遣については、当初の予定を超える29名の学生を派遣した（農工大農学部11名、同工学部8名、茨大5名、首都大5名）。海外での体験を積み、ディスカッションやプレゼンテーションなど海外の授業を体験する中で、英語を駆使したコミュニケーション力を向上させることができたことはもちろん、海外での長期留学への展望を持つ学生も出てきている。

受入については、AIMS大学との協議を重ねながら各科目の内容を構築し、三大学コンソーシアムとして4つのコースを開設、AIMS用の英語科目として70科目142単位を用意した（共通科目7、農工大農学部15、同工学部27、茨大9、首都大12）。積極的にPRした結果、予定を超える35名の学生を受け入れた。

バディ学生に関しては、日本にいながら異文化の体験をすることで、ASEAN諸国への関心や英語を含めた語学に対する意識を高めることができたほか、今後のセメスター派遣や長期留学への効果的な動機付けとなった。SNSを活用した学生間のネットワークも構築されている。

AIMS大学とのやり取りを通じて組織的な単位互換プログラムの構築や派遣・受入手続きに関する全般的なサポートなどを通じて、大学の教員・職員組織の双方にノウハウが蓄積されている。また、今後の広がり期を期して、新たな連携・協定大学の開拓にもつながっている。

これらの取組を通じて、本事業の目標である農学・工学・食料科学などの分野において、開発と成長、自然と人間社会などのアジア全体を取り巻く課題を解決する国際的な視野を持った人材育成を、着実に実施している。

【本事業における中間評価までの交流学生数の実績】

平成25年度				平成26年度			
受入		派遣		受入		派遣	
計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績
0人	0人	0人	0人	27人	35人	27人	29人